

建通新聞 中部

2024年(令和6年)5月28日火曜日



館内を見学する参加者

建築設備技術者協会中部支部設備女子会は24日、大同大学X棟(クロス棟)見学会を開いた。鉄骨造4階建ての同校舎は、建築・設備の仕組みや、各種材料がみえる「教材となる校舎」で、女性31人、男性5人が屋上の空調設備・受変電設備をはじめ、管内の設備を見て回った。設備女子会は発足から8年、今回が第10回記念事業で、これまでに延べ367人が参加。同協会中部支部の「女性の問題を女性だけのものにしない」バックアップの下、活動を展開している。

設備女子会

「教材となる校舎」を見学

大同大クロス棟を見学

JABMEE 中部設備女子会 知識と懇親深める

建築設備技術者協会(JABMEE)中部支部設備女子会は24日、第10回記念事業「大同大学X棟(クロス棟)見学会」を名古屋市南区の大同大学構内で開催した。写真。中部地区以外にも36人が参加。設備に関する知識と懇親を深めた。冒頭のあいさつでJABMEE中部支部の黒田慎二支部長は、学生を対象としたコンペを実施していることを紹介し「年々、参加者が増えており、学生の方々に伝えてほしい」と要請。運営委員の藤原永知子さん(藤原工業)は「建設業は男女にかかわらず、憧



れを持てる職業。大同大学に建築学部ができたことに大いに期待している。X棟は生きた教材であり、未来につながる見学会にした」と述べた。

見学会では、日建設計エンジニアリング部門設備設計グループアソシエイトの佐藤孝広氏が施設概要を説明。ガラス張りの空調機室や、さまざまな種類の木材や金属に触れることができ、サンプルバー、一部の天井は貼らずに設備が見

えるようにするなど、建築や設備の仕組みや各種材料が見える「教材となる校舎」であることを説明した。その後、参加者は2班に分かれ施設内を見学した。

X棟の規模はS造4階建て塔屋1階延べ1万5391平方メートル。設計・監理は日建設計、施工は大林組が担当した。工期は2019年4月～20年11月。

中部経済新聞

2024年(令和6年)

5月29日

水曜日

建築設計の工夫学ぶ

設備女子会が大同大で見学会



一般社団法人建築設備技術者協会中部支部(名古屋)の設備女子会は、名古屋市南区滝春町の大同大学で見学会を行った。設計会社や設備工事会社など23社・36人が参加した。見学会は、工学部建築学科の学生らが利用する校舎で、2021年4月に供用を開始。「建築を学ぶ教材となる校舎」として、

X(クロス)棟の外観を見学する参加者ら

コンクリートや鉄、木といった建材、天井を通る空調配管などがむき出しの状態で見えるようにしているのが特徴。夏の日差しを遮る深い庇(ひさし)や自然換気のための換気窓を設けるなど環境にも配慮している。同校舎の設計に携わった日建設計(本社東京都)の担当者や見学を引率した。

参加者たちは、担当者からの説明に熱心に聞き入り、設計の工夫によって快適性と利便性の両立が図れることを肌で感じていた。

同協会は、建築設備士や設備設計1級建築士らで構成する。設備女子会は16年発足で、女性の資格保持者を増やすことなどを目的に研修会や親睦を深める活動を行っている。見学会は今回で10回目。見学会の累計参加者は延べ186社・367人に上る。



設計会社の担当者から説明を受けた

大同大X棟を見学

J A B M E E

中部設備女子会

建築設備技術者協会（J A



B M E E) 中部支部(黒田慎二支部長)の設備女子会は24

日、名古屋市の大同大学X(クロス)棟で第10回見学会を開いた。写真。会員企業などから36人が参加した。

冒頭、藤原永知子運営委員は「建設業は本来、男女関わらず若者が憧れる職業であって良い。大同大学では4月、東海地区で初めて建築学部を開設した。これからの業界を担う若者が学び、考え、魅力ある建設業にしてくれると期

待している」と話した。

続いて、同校舎の設計を担当した日建設計の佐藤孝広エンジニアリング部門設備設計グループアソシエイトが施設の概要を説明した。校舎自体が建築を学ぶ教材となるように、空調機械室はガラス張りにして設備が見えるようにするなど、施設全体に施された工夫を紹介した。その後、参加者は校舎内を見学した。

